

杉浦地域医療研究センター

活動報告2016年度



京都大学大学院医学研究科
人間健康科学系専攻
杉浦地域医療研究センター運営委員会

施設概要

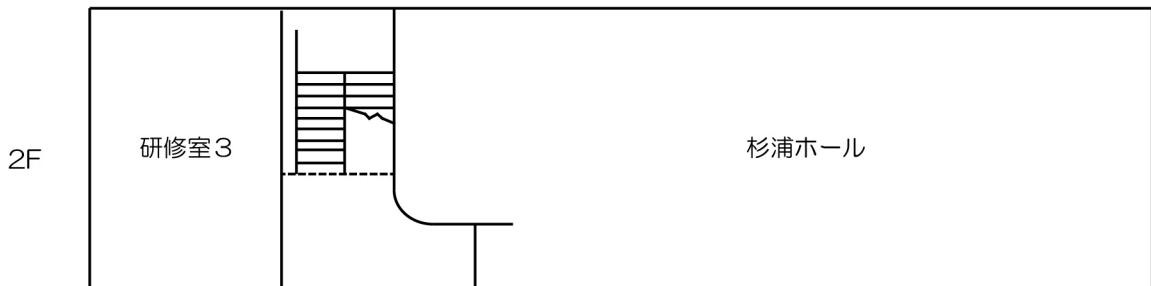
【名 称】 杉浦地域医療研究センター

【開設日】 2009年6月23日

【場 所】 京都大学大学院
医学研究科人間健康科学系専攻
〒606-8507 京都市左京区
聖護院川原町53

【建物概要】 階数・構造 2階建鉄骨造
延床面積 約500平方メートル

【設立経緯】 健康で文化的な地域社会作りを目指すという人間健康科学系専攻の理念と、薬剤師として地域医療の担い手となり、地域の人々に貢献したいという杉浦広一氏（スギホールディングス株式会社代表取締役会長）、杉浦昭子氏（同代表取締役副社長）両氏の理念が合致し、地域医療に資する教育・研究の推進・発展のため「杉浦地域医療研究センター」が建設され、両氏により寄贈された。



活動実績の概要

本年度（2016年度）、杉浦地域医療研究センター内の杉浦ホールにおいては、92件（114日間）の地域医療に関わる講演会、研修会、教育活動などが行われた。研修室1および研修室2は、地域医療および地域保健の発展のための研究スペースとして使用され、2つのグループによる研究が精力的に推進された。屋外研修室1および研修室3については、学内web予約システムによって利用予約することができるようになり、多数の会議や小グループ研修会等に利用された。

設備面では、全館無線LANアクセスポイント増設工事を行い、さらに杉浦ホールの後部座席用にホールディスプレイ2台を設置し、これまで以上に杉浦地域医療研究センターを有効に利用してもらえるようにした。

今後は、利用者から強く要望されている化粧室（トイレ）の設置について取り組む。

2016年度 杉浦ホール利用記録

月別	日付	会議名等	利用人数
4月	4/3	京都府理学療法士会総会	40
	4/8	京大病院PEACE研修	20
	4/9-4/10	京都大学 緩和ケア研修会	50/d
	4/13	在宅看護論演習	80
	4/19	京都府理学療法士会集会	20
	4/20	在宅看護論演習	80
	4/20	京都高次脳機能障害研究会	80
	4/23-4/24	QOL臨床研究会	60/d
	4/27	在宅看護論演習	80
5月	5/12	生活習慣病看護学セミナー「看護労働と政策」	100
	5/17	基礎検査展開学特論授業	60
	5/18	京大病院小児科病棟ボランティア「にこトマ」総会準備	10
	5/19	京大病院小児科病棟ボランティア「にこトマ」総会	80
	5/21	大学院説明会（検査）	50
	5/22	糖尿病カンパセーション・マップ トレーナートレーニング	25
	5/23	白川地域包括ケア会議	30
6月	6/5	京翔会研修会	30
	6/15	京都高次脳機能障害研究会	80
	6/18	身体運動の計測・解析・可視化とその応用に関する研究会	60
7月	7/1-2	緩和ケア研修会	50/d
	7/19	看護管理者研修	80
	7/22-7/23	スピリチュアルケアセミナー	70
8月	8/3	京大助産学研究会	30
	8/4-8/5	大学院必修科目「共通課題ゼミ」	65/d
	8/8	オープンキャンパス準備	10
	8/9	オープンキャンパス	50
	8/22	修士入学試験準備	10
	8/23	修士入学試験	50
	8/26	3年次編入試験	30
	8/29	中学生の京大訪問（説明会）	80
9月	9/1	COI研修会	30
	9/2	専門的緩和ケア看護師教育プログラム準備	20
	9/3-9/4	専門的緩和ケア看護師教育プログラム	50/d
	9/15	左京南包括ケア会議	30
	9/17-9/18	看護実践に活かせるスピリチュアルケアセミナー	60/d

月別	日付	会議名等	利用人数
10月	10/8	バイオメックフォーラム21研究会	100
	10/12	次世代医療を語る	50
	10/15	専門的緩和ケア看護師教育プログラム	50
	10/19	次世代医療を語る	50
	10/19	京都高次脳機能障害研究会	80
	10/21	健康すこやか学級 講演	40
	10/26	次世代医療を語る	50
	10/29	京都作業療法実践研究会	60
11月	11/1	博士課程入学試験	30
	11/2	次世代医療を語る	50
	11/2	人生の最終段階における医療体制整備事業研修会準備	10
	11/3	人生の最終段階における医療体制整備事業研修会	70
	11/4	市民公開講座 準備及びリハーサル	2
	11/5	2016年度人間健康科学系専攻市民公開講座	100
	11/7	医用画像・医用情報工学に関するジョイント研究会	80
	11/9	次世代医療を語る	50
	11/10	成人の発達障害および若手医師・医療スタッフの教育に関する講演会	100
	11/11-11/13	特色入試	30/d
	11/16	次世代医療を語る	50
	11/19	専門的緩和ケア看護師教育プログラム	50
	11/25-11/27	特色入試	30/d
11/30	次世代医療を語る	50	
12月	12/2	理学療法学専攻 卒論発表会	60
	12/7	次世代医療を語る	50
	12/13	学部発表会予演会	5
	12/14	次世代医療を語る	50
	12/15-12/16	看護卒業研究発表会	100/d
	12/17	専門的緩和ケア看護師教育プログラム	50
	12/21	次世代医療を語る	50
	12/21	京都高次脳機能障害研究会	80
12/22	関西おさかな勉強会	30	
1月	1/5	看護学専攻卒業試験	60
	1/6	がんリハビリテーション特別講演会	50
	1/11	次世代医療を語る	50
	1/12	看護学専攻卒業試験	60
	1/13	検査技術科学コース卒業研究発表会	80
	1/15	ACP看護研究会公開講座	80
	1/18	次世代医療を語る	50
	1/19	看護学専攻卒業試験（再試験）	60
	1/20	幹細胞搬送システム開発（BioL）コンソーシアム	40
	1/24	非がん（神経難病）小児の看取り、緩和ケアについて	50
	1/25	次世代医療を語る	50
	1/26	看護学専攻卒業試験（再試験）	60
	1/28	認知症のパーソン・センタード・ケア勉強会	50
	1/31-2/1	高度医療専門職大学院シンポジウム	100/d
2月	2/4-2/5	第8回小児がん親の会ピアサポーター養成研修会	40/d
	2/8-2/9	検査技術科学コース修士論文発表会	60/d
	2/11	再生リハビリテーションシンポジウム	90
	2/12	認知症初期集中支援チーム員養成事業 フォローアップ研修	60
	2/15	京都高次脳機能障害研究会	80
	2/16	左京南包括ケア会議	30
	2/17	京大病院PEACE研修会	60
	2/18-2/19	京都大学 緩和ケア研修会	50/d
	2/20	転倒予防講演会	25
	2/24-2/26	個別学力検査	50/d
	3月	3/3	ELNEC-Jクリティカルケアカリキュラム指導者養成プログラム(準備)
3/4-3/5		ELNEC-Jクリティカルケアカリキュラム指導者養成プログラム	100/d
3/10		我部山先生の最終講義	100
3/11		京都作業療法実践研究会	50
3/12		京都理学療法講習会	60
3/18		糖尿病診療の講習	100
3/25-3/26		JSTリハビリテーション研究会	80/d

2016年度 杉浦地域医療研究スペース活動実績報告書

課題名：地域在住中高齢者のロコモティブシンドローム予防のための運動器の機能向上に関する大規模研究

研究代表者：坪山 直生

使用スペース：地域医療研究室（研修室2）

1) 活動実績の概要

平成28年度の活動として、京都府在住および滋賀県長浜市在住の中高齢者583名を対象に運動機能や生活動作能力を測定し、地域在住中高齢者の運動器変化と動作能力との関連について分析した。さらに、平成26年度に測定会を受診した滋賀県長浜市在住中高齢者873名を対象に実施した追跡アンケート調査の分析を行い、運動器変化や運動機能低下についての縦断的検討を行った。本研究スペースについては、測定に用いている研究機器や関係資料一式を保管し、データ入力・解析を行うスペースおよび関係する大学院生の研究スペースとして使用した。

2) 今後の研究の展望 等

本研究課題では地域在住中高齢者における運動器変化や生活動作能力を多面的に捉えて評価し、運動器変化と動作能力との関連についてリスク因子の影響も踏まえて大規模研究により解明する。平成29年度からは滋賀県長浜市民約1万人を対象としたコホート研究（ながはま0次コホート）をベースとした長期縦断研究が行われる。つまり、平成24年～27年度に測定した対象者に対する前向き追跡研究が実施される。そのため、5年前に実施したベースライン調査データからの前向き追跡研究により、ロコモティブシンドロームを引き起こす運動器変化のカットオフ値を解析する予定である。これらによって、地域での介護予防事業を策定する上で、介入対象となるハイリスク者を見分ける判断基準が得られ、ロコモティブシンドロームや要介護リスクを早期に診断・予防することが可能となると考える。

3) 研究成果（発表論文、学会、出版物、産業財産権など）

【平成28年度論文】

●Malinowska KB, Ikezoe T, Ichihashi N, Arai H, Murase K, Chin K, Kawaguchi K, Tabara Y, Nakayama T, Matsuda F, Tsuboyama T. Self-Reported Quality Of Sleep Is Associated With Physical Strength Among Community-Dwelling Young-Old Adults. *Geriatrics & Gerontology International*, 2016, In press.

●Masaki M, Ikezoe T, Fukumoto Y, Minami S, Aoyama J, Kimura M, Ichihashi N. Association of walking speed with sagittal spinal alignment, muscle thickness and echo intensity of lumbar back muscles in middle-aged and elderly women: A Cross-Sectional Study. *Aging Clin Exp Res*. 2016;28(3):429-34.

●Araki K, Ikezoe T, Malinowska K, Masaki M, Okita Y, Fukumoto Y, Kimura M, Watanabe Y, Kita K, Tsuboyama T, Ichihashi N. Association between physical function and the load pattern during stepping-up motion in community-dwelling elderly women. *Arch Gerontol Geriatr*. 2016;66:205-10.

●Inoue W, Ikezoe T, Tsuboyama T, Sato I, Malinowska KB, Kawaguchi K, Tabara Y, Nakayama T, Matsuda F, Ichihashi N. Are there different factors affecting walking speed and gait cycle variability between men and women in community-dwelling older adults? Aging Clin Exp Res. 2016, In press.

【平成28年度学会発表】

国際学会発表

●Kato T, Ikezoe T, Fukumoto Y, Taniguchi M, Minami S, Watanabe Y, Kimura M, Ichihashi N. Relationship between one-leg standing ability and rate of force development in community-dwelling elderly people. 21st Annual Congress of the European College of Sport Science 2016.7.6-9, Vienna, Austria.

●Yamagata M, Ikezoe T, Tanaka M, Ichihashi N. Correlation between movement variability during static standing and one-legged standing ability in frail older adults. 21st Annual Congress of the European College of Sport Science 2016.7.6-9, Vienna, Austria.

●Kamiya M, Ikezoe T, Masaki M, Araki K, Kato T, Inoue W, Isono R, Koyama Y, Nakao S, Ichihashi N. Relationship of physical fitness, vitality, and cognitive function with physical activity patterns in institutionalized elderly individuals. 21st Annual Congress of the European College of Sport Science 2016.7.6-9, Vienna, Austria.

国内学会発表

●磯野凌,他.地域在住高齢者におけるロコモティブシンドローム悪化と関連する運動機能についての大規模縦断研究. 第51回日本理学療法学術大会2016.5.27-5.29, 札幌

●福元喜啓,他.中高齢女性の膝伸展筋力Steadinessが姿勢保持能力および動作能力に及ぼす影響. 第51回日本理学療法学術大会2016.5.27-5.29, 札幌

●佐藤駿介,他.歩行非対称性の新たな評価方法としての円歩行テストの有用性. 第51回日本理学療法学術大会2016.5.27-5.29, 札幌

●正木 光裕, 他.地域在住中高齢女性における腰痛と立位姿勢アライメント,背部筋の筋量および筋硬度との関連. 第51回日本理学療法学術大会2016.5.27-5.29, 札幌

●山縣桃子,他.聴覚刺激が高齢者の立位姿勢制御に与える影響—サンプルエントロピーを用いた非線形解析—. 第51回日本理学療法学術大会2016.5.27-5.29, 札幌

●神谷碧,他.施設入所高齢者における昇段動作時荷重量と昇段可否および運動機能との関連. 第51回日本理学療法学術大会2016.5.27-5.29, 札幌

●加藤丈博,他.下腿三頭筋の弾性率の加齢変化および筋間差について～せん断波エラストグラフィによる検討～. 第51回日本理学療法学術大会2016.5.27-5.29, 札幌

●島浩人,他.地域在住高齢者の年代別体力について. 第51回京都病院学会2016.6.12, 京都

●山縣桃子,他.聴覚刺激が健常高齢者の前額面・矢状面における立位姿勢制御に与える影響. 第53日本リハビリテーション医学会学術集会2016.6.9-6.11, 京都

2016年度 杉浦地域医療研究スペース活動実績報告書

課題名：センター・オブ・イノベーション（COI）プログラム

「活力ある生涯のためのLast 5Xイノベーション」

女性のからだところの健康サポートシステムの開発

研究代表者：我部山 キヨ子

使用スペース：研修室1

活動実績の概要

1) 背景および目的・目標

女性の社会進出や少子晩産化による影響の1つとして、核家族化の拡大、地域コミュニティの希薄化による育児の孤立が進んでおり、周産期うつ病や虐待リスクの増加が大きな社会問題として深刻化している。この問題を解決するために、地域・行政機関では助産師をはじめとする子育て支援の専門家による様々な支援サービスを提供しているが、母親の求めるニーズに十分に応じることができておらず、妊娠～育児期の母親の不安の解消には至っていない。

本研究の目的は、妊娠期・育児期の母親が継続的に助産師とつながり、必要な時に適切な支援を得られるようなICTシステムを開発することであり、今期は、開発に向けた全体システムのコンセプト構築を目指して活動した。

2) 今年度の実施内容

(1) 全体のシステム構想

①定例ミーティングの開催

日時：7月4日（月）、8月8日（月）、9月5日（月）いずれも18:00～20:00

検討内容：年間計画、実証実験計画、アプリ開発の基本方針、アプリの項目、研究費の執行方法など

定例ミーティングは大学、企業のみならず、臨床専門家、開業助産師、電子連絡ノートのシステム開発経験者など幅広い分野の専門家が出席し、各方面の意見を取り入れてアプリ開発の検討ができた。アプリ開発の基本方針を、女性と専門職が「ゆるくつながる」健康管理支援、専門家にもいつでも相談できる機能、妊娠・分娩・育児に関する継続的な記録の管理、利用者と専門職に対する利便性の確保、セキュリティの保全、（単一病院だけでなく）汎用性のあるアプリ、と定めた。基本方針をもとに、システムとアプリの項目を検討した。

実証実験に参加予定の開業助産師から意見をいただき、端末のやり取りで求められる範囲、情報提供や紹介、家庭訪問について検討し、実証実験計画に反映された。また、産後うつ評価尺度についても検討された。大学、企業のみならず、臨床専門家、開業助産師などが出席し、検討した。

アプリ開発の基本方針は、女性と専門職が「ゆるくつながる」健康管理支援、専門家にもいつでも相談できる機能、妊娠・分娩・育児に関する継続的な記録の管理、利用者と専門職に対する利便性の確保、セキュリティの保全、単一病院だけでなく、汎用性のあるアプリ、とされた。

実証実験計画の一環として、開業助産師の意見を聞き、端末のやり取りで求められる範囲、情報提供や紹介、家庭訪問について検討された。

②関連領域のシステムに関する調査

日時：9月1日（木） 18:00～20:00

場所：杉浦地域医療研究センター

テーマ：電子母子健康手帳の開発・運用の実際

講師：メロディ・インターナショナル株式会社

代表取締役 尾形優子氏

既存アプリケーションである電子母子健康手帳の特性（関連情報の一元化、アクセスのしやすさ、情報を適切に検索できる、医療機関、自治体、家族、企業が一体となって子育て環境を構築できる）

利用、運用、システムの構築、保守、個人情報取り扱いについて理解を深め、持続可能なシステム運用モデルとなるべく新しいアプリケーションの開発に有益なものとなった。



③実証実験計画書作成

本チームは、妊娠期・子育て期の女性と医療機関の助産師、地域の開業助産師を繋いで、しかも専門家のアドバイス機能を有するクラウド型情報共有システムの構築を計画している。そのためには、①ツールの開発→②有用性の検討→③実用化の3ステップが必要であり、現在はツールの開発の段階である。その後の有用性の検討に向けての実証実験は倫理委員会の審査の承認が必要であるため、計画書の作成を行い、準備を行っている。

④妊産婦ケアや育児期の母親を支援する有識者へのインタビュー調査

妊産婦や母子への支援に関する現状を把握し課題を抽出するために、助産師、保健師らの他、民間の育児支援関係者なども含む有識者へのインタビューを実施した。

⑤ユーザー（妊婦および育児期の母親）の「助産師に対するニーズ」の調査

妊娠期から産後1年未満の女性に対して、不安に思っている内容や対処法、さらに必要と思う支援について、Web調査による横断的把握を試みた。

⑥入力項目、入力方法、画面展開方法の検討

実証実験に向けて、アプリケーションに入力する項目や入力方法、画面展開方法を、妊娠期、分娩・入院期、および乳児期に分けて作成、検討した。

⑦全体システムのコンセプト構築及び簡易検証

ユーザーへのニーズ調査や有識者インタビューに基づき、助産師による支援の全体システムのコンセプトを構築して簡易検証を行い、システム（これに用いるツール）の開発に向けたプロトタイプ・アプリを3月末までに作成予定である。

(2) 企業によるニーズ調査の支援

①有識者リクルーティング、およびインタビューの実施

アプリの開発をよりニーズに見合ったものとするため、想定されるアプリ利用者である、ユーザーとステークホルダーの両方からの幅広いニーズ調査を実施する。

産科領域の有識者のリクルーティング、およびインタビューの実施を本チームが行うことにより、より適切なニーズの把握が出来ると考えられる。有識者として、医療機関勤務の助産師、出張開業助産師、有床開業助産師、産婦人科医師を紹介し、専門家としての立場からインタビューの支援を行う。

②健康診断データ解析によるプレコンセプションヘルスの現状把握

プレコンセプションヘルスとは、妊娠（受胎）前の健康のことであり、すべての妊娠が意図され計画されたものであるよう、男女が生殖のライフプランを持つことなど、生殖に対するヘルスプロモーションを意味する新しい概念である。本プロジェクトにおいて、対象は妊婦だが、その妊婦が受胎前から取っている行動習慣や、健康行動に着目し、プレコンセプションヘルスで提唱されていること（禁煙、葉酸摂取、適正体重の維持など）が、ニーズとして存在するのかを健康診断データの解析により現状把握し、アプリケーション利用者のニーズと比較検討する。

③プレコンセプションヘルスに関する文献調査（データ解析観点抽出）

世界（WHO）や諸外国（アメリカCDC、イギリスNHS）および日本のプレコンセプションヘルスケアに対する取り組みを文献調査し、ニーズ調査項目の設定や、データ解析に役立てる。具体的には、プレコンセプションヘルスの位置づけ、歴史的背景、提唱されていることなどを抽出した。

(3) 今後の研究の展望 等

①次年度は、開発したプロトタイプ・アプリを用いた実証実験を実施し、課題を抽出して改良を重ねていく予定である。

②また、特に助産師に対するニーズが高いと思われる授乳支援に焦点を当てた調査や、地域母子保健・子育て支援に従事する関係者を効率的につなぐための現状調査を実施し、今後のシステム開発につなげていく予定である。

3) 研究成果（発表論文、学会、出版物、産業財産権など）

①データ分析中、システム開発中にて、今年度はなし



京都大学
KYOTO UNIVERSITY